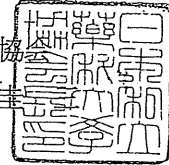


厚生労働省 医薬食品局長 殿

一般社団法人 日本私立薬科大学協会

会長 井上 幸



### 第99回薬剤師国家試験問題の検討結果について

薬学6年制教育が完成して3回目の薬剤師国家試験（第99回薬剤師国家試験）が無事終了したことは、薬剤師国家試験の問題作成や試験実施に関わった全ての関係者の努力の賜物であり、私立薬科大学協会としても関係各位にお礼を申し上げる次第であります。

当協会では今年度もITシステムを利用して、全国の国公私立薬科大学・薬学部から全ての試験問題に対する評価・意見を収集しました。その後、7つの部会ごとに全大学の担当教員が集まって最終評価を行い、その結果を本報告書に纏めました。今後の国家試験問題作成に、少しでも役立てば幸いです。

第99回薬剤師国家試験は、合格率が極めて低い結果となりましたが、出題された問題については、思考力を問う良問であるとの意見が多く出されました。各部会が集約した意見からすると、「物理・化学・生物」の必須問題の難易度が高かったこと、新薬や一般的でない医薬品に関する問題が全般的に出題されたこと、適応外や添付文書・教科書に記載されていないレベルの知識を問う問題が多く出題されたこと等の要因が相まって、極めて低い合格率となったものと推察されます。

薬剤師国家試験は、薬学部卒業生が基本的な知識・技能・態度を有した薬剤師として医療現場に受け入れられるかどうかを判断する資格試験であります。従って試験問題は、その趣旨に沿った内容で出題されることを要望します。特に実務に係る問題は、一般的な実習内容に沿った出題を要望します。大学関係者からは上記のように、今回の試験問題は良問が多かったとの評価が得られていますが、薬剤師国家試験問題として良問だったかどうかを、今一度検証する必要があると考えます。

なお、全員正解と扱われた問題以外に、「誤りがあると判断された問題」および「特に改善を要望する内容」を下記にまとめました。今後、これらの問題を出題する際には、内容や表現の訂正を要望する次第であります。

### 記

#### 1. 誤りがあると判断された問題

問 15 抗ウイルス活性を示すサイトカインが選択肢中に複数あるため、解答が出せない。

- 問 133 問題文中の「*Salmonella enterica* serover Typhimurium」の serover は、serovar の誤りである。
- 問 152 選択肢 4 に「芳香環の 3, 4 位にヒドロキシ基がつくことで」とあるが、この表記は第 15 改正日本薬局方に基づくものであり、第 16 改正日本薬局方の化学名では、ヒドロキシ基がつく炭素番号は芳香環の 1, 2 位であるので、誤りである。さらに、アドレナリン作動薬はフェニルエチルアミンだけではない(選択肢 1)、「アルキル置換基が大きいほど」は置換基の大きさの上限が示されていないので、問題として成立しない(選択肢 3) など、複数の選択肢の文章中に誤りがある。従って、設問文の「誤っているものを 1 つ選べ」に対して複数の正解があることになる。このような問題は、アドレナリン作動薬の構造と作用について正確な知識を有する受験生を混乱させることになるので、今後十分に吟味されるよう、強く要望する。なお、構造活性相関を問う問題では、第 92 回薬剤師国家試験 問 121 のように、基準となる薬物の構造を提示することが望ましい。
- 問 206 フルバスタチンナトリウムは就寝前ではなく、夕食後に服用する。処方箋の記載を添付文書に記載されている用法・用量に統一すべきである。
- 問 234 シクロホスファミドは「閉鎖系の調製器具を使用しなければならない」という表現は限定的であり、不適切である。根拠となるガイドライン等はなく、閉鎖系調製器具を使用していない病院もあるという現実と乖離している。
- 問 239  $\gamma$  線に関する正誤を問う問題で、選択肢 3 の「電子と衝突して消滅し、その際、別の種類の放射線が放出される」が「誤」とされているが、光電効果による特性 X 線の発生を考えると、選択肢 3 も正解の可能性はある。
- 問 345 炭酸リチウムは、過量投与時には利尿薬(マンニトール、アミノフィリン等)を投与して排泄を促進させるが、チアジド系やループ利尿薬の併用によって、腎での再吸収が促進され血中濃度が上昇するので併用注意である。利尿薬が特定できないので、不正解とも解釈できる。

## 2. 特に改善を要望する内容

「物理・化学・生物」の問題内容について

実践問題の実務での用語が基礎系の用語の定義(例えば、pKa や構造式の位置ナンバーなど)と異なっているため混乱を招いている。例えば、問 197 に「ジアゼパムの pKa = 3.5」とあるが、正確には、「ジアゼパムの共役酸の pKa = 3.5」とすべきである。

必須問題の中には、理論問題と同程度の難易度のものが見られる。必須問題の趣旨に則って、適切な難易度の問題の出題を要望する。

#### 「衛生」の問題内容について

最近、社会的に話題になっている公衆衛生学上の問題についての出題が 3 題あり（問 129、問 233、問 243）、これらは、まだ教科書に記載されていないと考えられるが、衛生薬学の役割として、このようにトピックス性の高い出題も必要ではないかとの意見が多かった。ただし、問 243 のジクロロメタンやジクロロプロパンと胆管がんとの関係に関する知識を問う問題については、トピックス性は評価するものの、これまで安全とされていた物質の評価が急に変化したものであり、やや時期尚早であったのではないかとの指摘があった。

#### 「薬理」の問題内容について

問 250 「漢方薬の作用機序」を問う問題において、ヒトにおける六君子湯の作用機序に関する明確な根拠が乏しい。

教科書や添付文書に記載のない薬効を問う出題（問 264-265, ロラゼパムの制吐作用）は国家試験出題基準の観点から不適切であると思われる。

同一の現象・事象に対して異なる用語が使われている。例えば、問 27 選択肢 3 の「固有活性」に相当する用語として、第 98 回薬剤師国家試験 問 151 では「内活性」が使われている。また、問 152 の「作動薬」と問 27 の「受容体刺激薬」は、同一の意味か両者を区別すべきかの定義が曖昧である。

薬物の構造（特に炭素番号）に関わる問題においては他領域の出題との整合性を持たせるため、第 16 改正日本薬局方に従うべきである。また、当該薬物の構造を可能な限り図示することを要望する。

#### 「薬剤」の問題内容について

一般的ではない薬物や、現在販売されていない薬物が出題されている。また、臨床現場に出ないとわからない薬物に関する問題や、機序が完全に解明されていない相互作用に関する問題が出題されているので、改善が望まれる。

#### 「病態・薬物治療」の問題内容について

学生レベルではまず見ない統計手法や医療情報、例えば、数量化 I 類・II 類（問 194）、Up-to-date（問 68）などが出題されており、学部卒の資格試験として改善が必要である。また、実践的な実務に係る問題については、実務実習の内容によって、学生間に差が出る可能性がある。

#### 「法規・制度・倫理」の問題内容について

本分野、特に法規に関しては、薬事衛生六法の内容を根拠に講義が行われており、

局長通知の内容まで講義に反映できない。また法改正の内容については公布、施行後から国家試験出題までの経過期間を明示していただきたい。

「実務」の問題内容について

適応外、添付文書、教科書に記載されていないようなレベルの問題が出題されている。また、発売後2年以内の医薬品が出題されているが、基準を明確にすべきである。

専門性の高い薬剤を出題するのではなく、汎用性のある医薬品を問題にすべきではないか。専門性の高い薬剤については、実務実習の内容によって、学生間に差が出る可能性がある。

全般的に、今回の国家試験では新薬の出題が多かった。また、一般的ではない医薬品の出題も見受けられるので、改善が望まれる。

図や表を使った問題により思考能力、問題解決能力を問うことができるようになったが、標準時間（必須：1問1分、それ以外：2.5分）内での解答が困難である長い設問や選択肢が数多く認められ、全体として時間が足りないと思われる。

実践問題の症例問題は、症例の背景や症状、検査、経過などの記載が少ないので、患者のイメージが伝わらず、一般的な理論問題の域を出ず、提示された患者個別の病態、薬物治療を考える実践問題とはなっていない。解答時間も考慮すると、3問以上の複合問題を増やすことが望ましい。

その他の意見については、別添資料の各部会報告書にまとめられているので、参考になれば幸いです。

以上